



読書山梨

Yamanashi Prefectural Library



ピックアップ県立図書館 ～レファレンスサービス～

「レファレンス」という耳慣れない言葉。日本語でぴったりの表現がないのですが、図書館の最も重要な役割の一つである、「調べもののお手伝い」をするサービスのことです。本を探している、日頃のちょっとした疑問を解決したい、仕事に必要な情報を集めているといった方々に、図書館資料を使ってお手伝いをしています。

これまでに寄せられたご相談の一部は、レファレンスデータベースや事例集として当館ホームページで公開していますので、ぜひのぞいてみてください。新たな発見や、さらなる好奇心に出会えるかもしれません。

カウンターでのご相談のほか、電話やファックス、当館ホームページからお申し込みいただけます。まずはお気軽にどうぞ。



Information

イベント案内

- 「おんがくかいぶらりIX」モーツァルト・アンサンブル・オーケストラ 12月24日(出)
- 「山梨芸術文化協会新春朗読会」 1月8日(日)
- 「かいぶらり寄席」 3月5日(日)

編集後記

今年の8月にはリオオリンピックが開催されました。試合観戦の為、眠れない夜を過ごした方も多いのではないのでしょうか。

新山梨県立図書館が開館したのはちょうど前回のロンドンオリンピックが開催された年でした。4年経ち、ますます多くの皆さんにご来館していただいております。

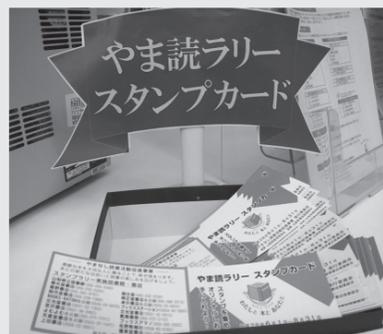
4年後開かれる東京オリンピックへの期待も高まりますが、山梨県立図書館の今後の発展も見守っていただけたら幸いです。
(企画振興担当 長久保 秀美)



やま読ラリー

6月から8月にかけて、やまなし読書活動促進事業の一環として「やま読ラリー」が開催されました。

「やま読ラリー」は、県立図書館と、「やま読ラリー」に参加する書店間での「知の回遊」を目的としたイベントです。県立図書館を利用したり、参加書店で図書や雑誌を購入することで、「やま読ラリースタンプカード」にスタンプを集めます。県立図書館と参加書店のうち3店舗の全部で4か所をラリーし、見事スタンプカードをコンプリートした方には、山梨県出身の人気作家である林真理子氏、神永学氏、そしてノーベル医学生理学賞を受賞した大村智氏によるサインと読書への想いがつづられたプレミアムしおりのセットが贈られました。



阿刀田 高館長よりご挨拶

言葉遊びから

「人という字はなア、二本の棒が支えあっている。一本が倒れれば、もう一本も倒れる。人もおんなし。一人が倒れれば、もう一人も倒れる。おたがいに支えあい、助けあっていかなきゃならん」と、祖母さんに教えられた。両手の動きまで覚えている。まことしやかだが、うそと言えば、うそだ。人という漢字は二本足の人間をかたどった象形文字だろう。しかし、日本人はこうした(言葉遊びのような)教訓が大好きで、年輩者からいろいろと教えられたものだった。

おいしいものを食べたあとに「うまかった」と叫ぶと、横からなぜか「うし、まけた」と茶化するのがある、これが笑いを誘う。「アリが10匹、ありがとう」というのも聞かされた。「おじいさんは山へ行ってお柴を刈り、川上でオナラをしました。おばあさんは川下でくさ、かった、くさかった。」と、これも大笑い。

幼いころの言葉遊びは、言葉への関心をつちかってくれる。それが子どもの心を本へと誘う。少なくとも私は自分の4～5歳のころを必死に思い返すと、こんな体験が私を本好き、読書好きへと導いてくれたように思う。

このことと関わりがあるのかどうか、童詩を創る詩人は、たいてい言葉遊びの詩を書いている。「イルカ、いないか、イルカはいるか…」だれの詩だったろう。こうした言葉遊びの効能について年輩者は少しく心を傾けみませんか？



事業報告

上映会

シネマかいぶらり夏休み子ども映画会 [8月11日]

夏休み中の子どもたちに図書館をもっと身近なものと感じてもらうために、子ども向け映画の上映会を開催しています。本年は、8月11日の山の日に英国傑作ファンタジー小説の第一部「ライラの冒険 黄金の羅針盤」を上映しました。

第1回目の「赤毛のアン」第2回目の「恐竜大冒険」に続く第3回目の開催でした。ご家族でご参加いただき、「以前から観たかった映画を孫と鑑賞できて良かった。」「名画の上映会をこれからも続けて。」などのお声をお寄せいただきました。



山梨県立図書館報

読書山梨140号

発行日 平成28年11月1日

発行：山梨県立図書館(かいぶらり)

〒400-0024 甲府市北口2丁目8番1号

TEL:055-255-1040(代表) 055-255-1041(施設予約) FAX:055-255-1042

URL: http://www.lib.pref.yamanashi.jp/

E-mail: ken-tosho@lib.pref.yamanashi.jp

音楽

おんがくかいぶらりⅦ [7月16日]

県立図書館では「おんがくかいぶらり」と題して、ジャズ、邦楽からクラシックまで、あらゆるジャンルの音楽コンサートを主催しています。

7月16日の夕刻には「ギター・尺八・ヴィオラ・ダ・モーレのセッション」を2階多目的ホールで開催しました。演奏者は、ギター、山上浩幸氏、尺八、奥田徹氏、ヴィオラ・ダ・モーレ、藤原義章氏で、曲目は「アベマリア」「禁じられた遊び」「産安」「カフェ」などでした。「3つの楽器の音色がこんなに合うとは驚きでした。」「即興曲の演奏は迫力がありました。」「この音色を山梨から世界へ発信して下さい。」と感動の声が寄せられました。和洋の情緒が混ざり合い、哀愁に満ちた調べであると同時に情熱的でもあり、他では聴くことのできない演奏でした。「おんがくかいぶらり」シリーズでは、今後も、パーカッションや、オーケストラ、箏など生演奏をお届けして参ります。



読み聞かせ

外国語の絵本の読み聞かせ [5月22日]

山梨県立図書館では年に5回程度、「外国語の絵本読み聞かせ」を開催しています。当館のボランティアである図書館協力会の外国語読み聞かせ分野に所属しているの方々による活動で、山梨県立図書館との共催で実施しています。英語など他の言語での読み聞かせは新鮮で、多言語に触れる機会ができてうれしいという声を耳にしています。小さなお子さんなど、ご家族連れで参加される方が多く、リピーターの方もなじみの絵本が出てくると楽しいようです。毎回たくさんの方に外国語に親しんでいただいています。

今後の開催日については1カ月くらい前から館内チラシ、HP等でご案内しますので、機会がありましたらぜひご参加ください。



朗読会

ボイスルーム朗読会 [7月24日]

7月24日の日曜日に、子ども向けのおはなし会を開催しました。出演者は「ボイスルーム」のメンバーで声を職業とする現役のプロフェッショナル4名です。本館1階中央の会場が88名もの親子連れで賑わいました。「さすがアナウンサーのみなさん、読み方も、声色の使い分けも素晴らしく、子どもと一緒に聞き入ってしまいました。」と感想が寄せられました。「ボイスルーム」は、年間6回に渡り「昭和・戦争」「クリスマス」「富士山の民話」などのテーマで、幼児から学生、大人など広い年代層に向けて朗読会を開催しています。



資料展示報告

資料展示報告

- 1 「武田信玄・勝頼と真田氏」 【3月18日～5月15日】
- 2 「塔博士・内藤多仲」 【5月20日～7月10日】
- 3 「雨を知り梅雨を楽しむ」 【5月26日～7月24日】
- 4 「やまなしの伝統工芸」 【7月15日～9月11日】
- 5 「Fujisan学ぼう・守ろう・楽しもう」 【7月28日～9月25日】



やまなし読書人

内野 清美さん (山梨県立図書館協力会会員)

物心つく頃にはもう本が大好きな女の子だった。読書をしない両親が幼い私を本の虫に仕立てあげた事は、奇跡的に最高のプレゼントだったと心から思う。何もかも忘れ、物語の世界へ誘われるあの感覚。自分の小さな世界を丸ごとひっくり返す新しい学び。日常生活では決して味わえない喜怒哀楽の旅。スポーツが肉体と精神を鍛錬するならば、読書は心と想像力を鍛錬する。読書は出会い。そして良い出会いは人生をとりどり豊かにしてくれる。

読書離れが進んでいると聞く。人生を豊かにしてくれる読書の素晴らしさを少しでも次世代に伝えようと5年前から県立図書館で外国語絵本読み聞かせのボランティアをしている。いつしか毎回楽しみに来てくれる小さな常連客もできとても嬉しい。そして今私のお腹に宿る小さな命。この原稿が発行される頃には誕生しているかもしれない。心新たに、これからは未来そのものである小さき命たちに届けていこう。読書が秘めた豊かな魔法を。